

議 事 録

会議名	金属・セラミックス技術委員会 (H14年度第1回)	主催者 電気学会
日時	平成14年6月25日(火)	場 所 横浜市産業共同研究センター
出席者	松島(キャノン)、田中(ISTEC)、坂田(古河)、山田(東芝)、石渡(東芝)、一瀬(電中研) 三村(古河)	
<p>【結論】本委員会は電気学会の12技術委員会の一つであり、H14年度に、委員長、委員の変更があった(メンバーは11名)。本委員会の下には、現在二つの調査専門委員会(超電導デバイス:吉川信行先生、超電導線材:秋田先生)が継続されているが、超電導デバイスは本年度終了する。本年度、新規テーマを立ち上げる予定で検討する。</p>		

【議事】

1. 挨拶

- ・ 旧委員長松島氏の挨拶
- ・ 新委員長田中氏の挨拶
- ・ 新旧委員の挨拶
東芝(山田氏 石渡氏)、電中研(秋田氏、代理で一瀬氏)、古河(坂田氏 三村)

2. 14年度活動方針(案)

- ・ 田中新委員長より、資料により活動方針案が説明された。
- ・ 出口(ニーズ)に適合した材料製造技術の観点で調査したい。
- ・ 新規テーマの一つとしてナノテクを機軸としたニーズ適合型材料技術が考えられる。

(質疑)

- Q)この提案だと他の学会の材料と同じにならないか。
- A) 物性調査なら重複してしまうが、電気の立場で材料の製造技術を扱いたい。
- C)企業はプロセスを公開しないだろう。企業の委員のメリットを考慮すべき。
- C)すぐに新しい調査専門委員会はできないだろうが、本年度は立ち上げる活動を行ないたい。これに関しては各委員と十分議論して進めていきたい。
- Q)環境・エネルギーを取り込むなら、本委員会の名称を変えるか、新しい委員会をつくった方が良いのでは。
- A) 名称変更等の考えもあるが、電気学会の技術員会は細分化されており適当な名称は他にないと考える。
- C)電気学会の会員数は激減しており、その対策として情報通信と提携している。
- C)活動成果で会員を取り込みたい。新しいスタンスで他の分野との交流も図りたい。
- C)金属・セラミックスでは漠然としてわかりにくいとの意見もある。

C)本委員会の名称も今後検討していきたい。

Q)ダイヤモンドを研究されている吉川昌範先生がファインセラミックスセンターから物づくり大学に移られた。新メンバーに先生は入っていないが、先生に委員を継続してお願いするか。

A) 今回の新メンバーでスタートし、ファインセラミックスセンターには適当な人材をお願いしてみる。

3 . H14 年度活動計画

- ・ 松島旧委員長より、資料により活動計画（第一次案）が説明された。
- ・ 吉川信行先生の超電導デバイスは H14/9 で終了。吉川信行先生の方で新規の専門調査委員会の立ち上げを検討中だが（計画では立ち上げるとして1件をカウント）、企業の委員が減少しそうである。

（質疑）

C)吉川先生と相談して、7月中には新規委員会を立ち上げるかどうか方針を出したい。新規調査専門委員会のテーマは先生の興味があり委員が集まりやすいものとしたい。

Q)この活動計画は何時出すのか。

A) 電気学会から提出依頼が毎回くるので、その都度提出する。

4 . その他

- ・ 本技術委員会の開催は、委員長（田中）+ 幹事（三村）+ 幹事補（未定）で調整する。
- ・ 本技術委員会は4回/年の運営委員会の前に開催したいので、次回の第2回は9月ごろの予定。（第3回は12月、第4回は3月ごろの予定）

以上